

室蘭港 港湾計画改訂

前回改訂:平成6年11月(目標年次:平成10年代後半)
今回改訂:令和3年6月(目標年次:令和10年代後半)

長く鉄鋼業を支えてきた室蘭港は、引き続きその原燃料や製品の物流拠点としての役割を果たすとともに、自動車部品に用いられる高品質な特殊鋼などの安定供給、航空・宇宙産業、エネルギー産業等、時代の先端を行く新たなニーズに対応する物流拠点としての役割を期待されている。

入江地形による天然の良港であり、港内は静穏・広大で、かつ大水深が確保されている。そのため、北海道において唯一、22万トン級クルーズ船の着岸が可能となるという利点を活かし、北海道の道南・道央地区の観光玄関としての役割を担っている。

令和3年6月21日
交通政策審議会
第82回港湾分科会
資料1-1



- 国際拠点港湾
- 重要港湾
- 地方港湾

- ・ 基幹産業の原燃料調達及び製品出荷
- ・ 世界最大級クルーズ船の寄港

室蘭市総合計画における室蘭港の位置づけ

室蘭市では、近年の社会状況の変化の中、主力産業である鉄鋼業を支えるとともに、持続可能なまちづくりを進めるため、令和2年3月に第6次室蘭市総合計画を策定した。

同計画では、室蘭港における水素産業展開への意欲が示されると共に、基幹産業を支える物流拠点としての利用拡大、にぎわいとふれあいのある港空間の形成に向け、「室蘭港長期構想」「港湾計画」の推進に取り組むとしている。

第6次室蘭市総合計画(令和2年3月)における港湾関係の記載抜粋

分野別目標

・目標1 企業・大学等と連携し、成長・挑戦を続けるものづくりのまち

【現状と課題】

脱炭素化の潮流を踏まえ、これまで先進的に取り組んできた水素事業の取り組みをさらに発展させ、港湾都市である地の利を生かし、再生可能エネルギー事業先進地である諸外国との連携も視野に入れるなど、世界に目を向けた取り組みも必要です。

【目標に向けた取組】

航空機等の成長産業分野へ参入する企業への支援や、中小製造業の現場においてIoT やロボットの導入促進を図ることで、企業の付加価値の向上や競争力の強化を支援し、新規産業に挑戦するための土壌づくりに取り組みます。

脱炭素化の動きを水素産業展開の好機と捉え、室蘭港の水素供給基地化に向けた取り組みや、これまでの水素事業における成果を広くPR し、再生可能エネルギー・水素関連事業の実証事業等の誘致に取り組みます。

・目標1.1 物流や交流の拠点としてにぎわいのある港

【現状と課題】

本市は天然の良港である室蘭港とともに発展してきたまちですが、港を取り巻く社会や経済情勢等の変化により、近年入港船舶数や取扱貨物量が減少傾向にあり、特に臨海部の企業の事業縮小等が大きく影響しています。

一方で、2018年(平成30年)にはフェリー航路が10年ぶりに復活し、新たなヒトやモノの流れが生まれるとともに、近年大型化するクルーズ船受け入れを見据えた祝津埠頭の岸壁改良が進むなど、港の活性化に向けた取り組みが進んでいます。

2019年(令和2年)には国内最大級のバイオマス発電所の開業があり、環境・エネルギー分野での港の活用による物流網の拡大や、フェリー・クルーズ船などによる観光面での交流促進など、将来を見据えた持続可能な室蘭港を目指す取り組みが求められています。

【目標に向けた取組】「室蘭港長期構想」「港湾計画」の推進

フェリー、コンテナ航路の利用促進やRORO 船等の航路誘致、環境・エネルギー分野等での活用についてポートセールスを展開し、基幹産業を支え、物流拠点としての利用拡大を図ります。

中央埠頭の旅客船バースに加え、世界最大級の大型クルーズが着岸可能となる祝津埠頭を生かし、西胆振を中心とした周辺観光地とも連携したポートセールスなどにより、クルーズ船の誘致に取り組み、にぎわいとふれあいのある港空間を形成します。

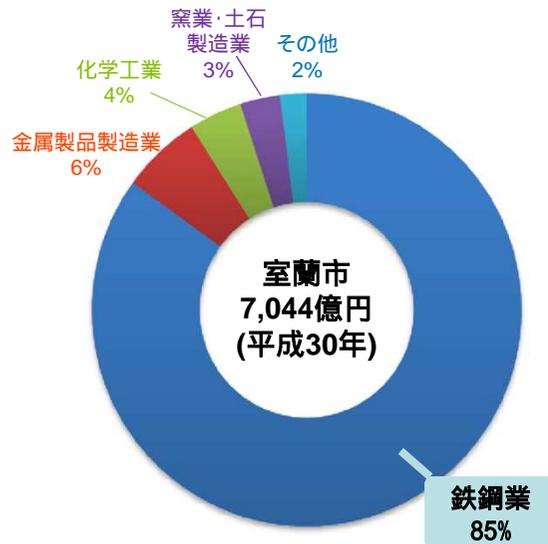
室蘭港の担う役割(鉄のまち室蘭、日本の鉄鋼業を支える拠点)

室蘭港では、製鉄所・製鋼所を中心として自動車部品加工企業やリサイクル関連企業が集積する鉄鋼コンビナートが形成されており、室蘭市の製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合は85%となっている。

製鉄所は、全国19のうちの1つ、北海道・東北では唯一となる高炉を有しており、2020年には20年に一度の大改修が実施され、今後も我が国の鉄鋼業の一翼を支えていく。

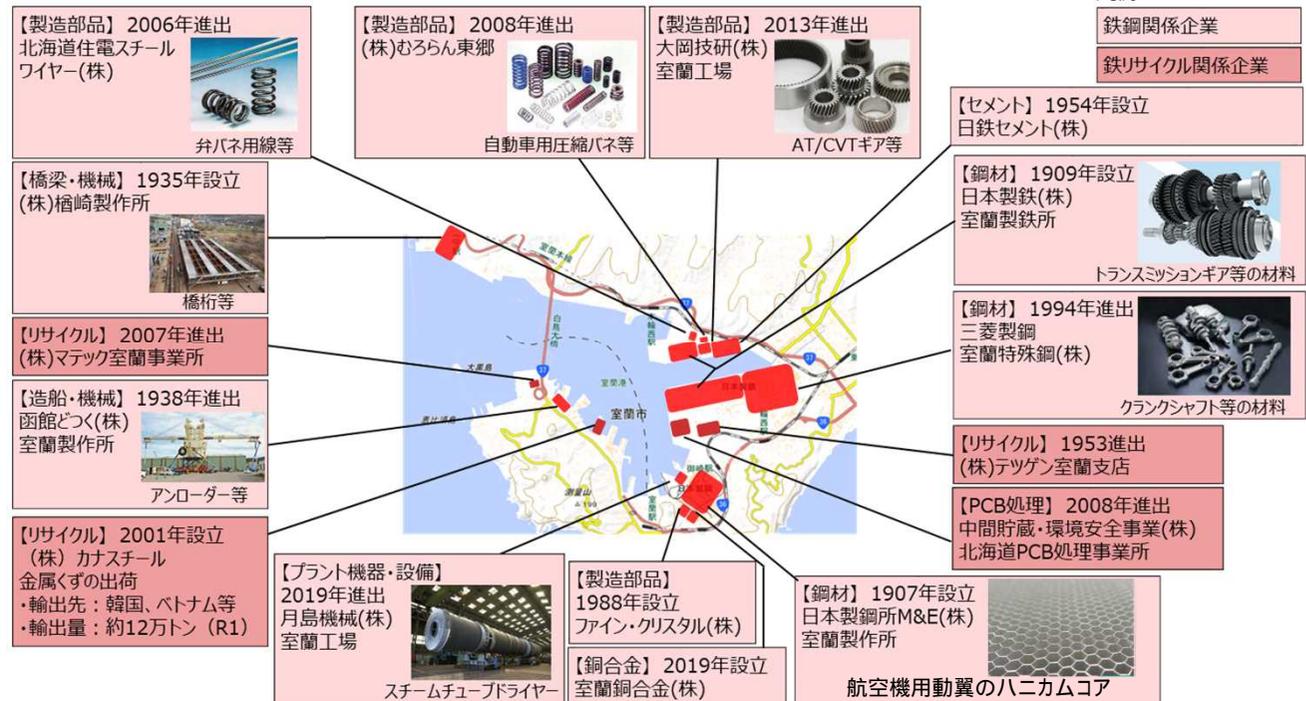
航空機複合材製造ラインの新工場が平成29年12月から稼働している。また、産業向けの大型乾燥機、脱水機、汚泥焼却炉などを製造する新工場が平成31年4月に稼働。令和元年10月には大型乾燥機が室蘭港から海外に初出荷された。

室蘭市の製造品出荷額



出典: 令和元年北海道工業統計

室蘭港における鉄鋼関係産業の立地状況



室蘭港の担う役割(にぎわい・交流の拠点)

室蘭港背後には、「みなとオアシス室蘭」や令和元年5月に日本遺産に認定された「炭鉄港(近代北海道を築く基となった地域を、石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結ぶことにより、人と知識の新たな動きを作り出そうとする取り組み)」構成施設が立地している。

室蘭港近隣には、洞爺湖、登別温泉、ウポポイ(民族共生象徴空間)等の北海道を代表する観光地が集中している。室蘭港は、大型クルーズ船が太平洋を横断する際の玄関口に位置し、クルーズ船社からは「室蘭港は静穏で水域が広く、回頭しやすく、是非寄港したい港である」という評価を得ている。

そのため、これらの特性を活かし、8万トン級から22万トン級までのクルーズ船を祝津絵鞆地区で、それ以下の規模の船舶を入江地区で受け入れ、室蘭港背後や近隣の観光地とも連携したにぎわい・交流の拠点となることで、地域の活性化、北海道観光の活性化、観光立国への貢献を図っていく。

みなとオアシス室蘭・炭鉄港構成施設

室蘭港では、祝津絵鞆地区・入江地区周辺に、みなとオアシス室蘭や「炭鉄港」構成施設などが集まっている。



クルーズ拠点としての優位性

北海道太平洋側に位置する室蘭港は、カムチャッカクルーズやアラスカ方面のクルーズの玄関口として、地理的に最適な位置にある。

室蘭港は、港内が静穏で広い上、北海道・東北で唯一となる世界最大級の22万トン級のクルーズが入港可能な施設を有する。

近隣の観光地

車で1時間圏内に、洞爺湖、登別温泉、ウポポイ(白老町に令和2年7月開業)などの観光地が集中している。



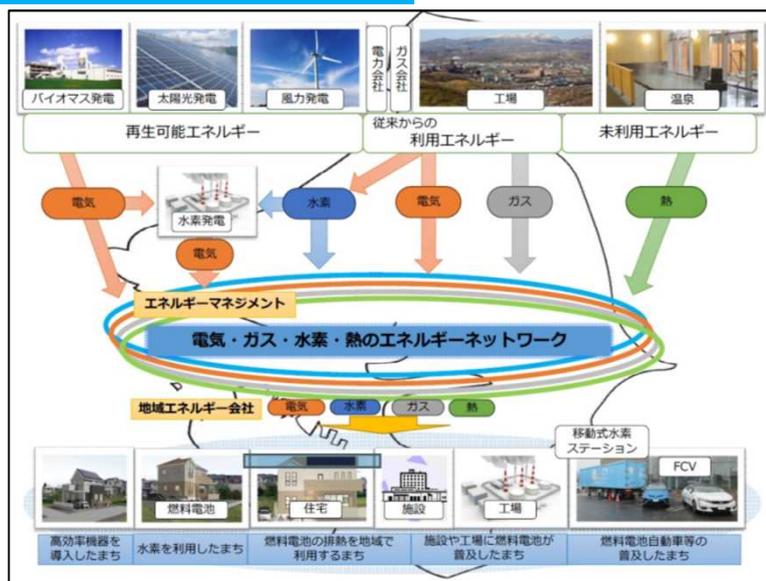
室蘭港の担う役割(エネルギーの輸送・生産拠点)

室蘭港は、海外や関東で生産された石油製品を一時貯蔵し、需要に合わせて北海道・青森地区や本州日本海側に年間100万トン程度払い出す中継機能を担っており、石油タンクなどのエネルギーの貯蔵・輸送や利用に関する既存ストックがととのっている。

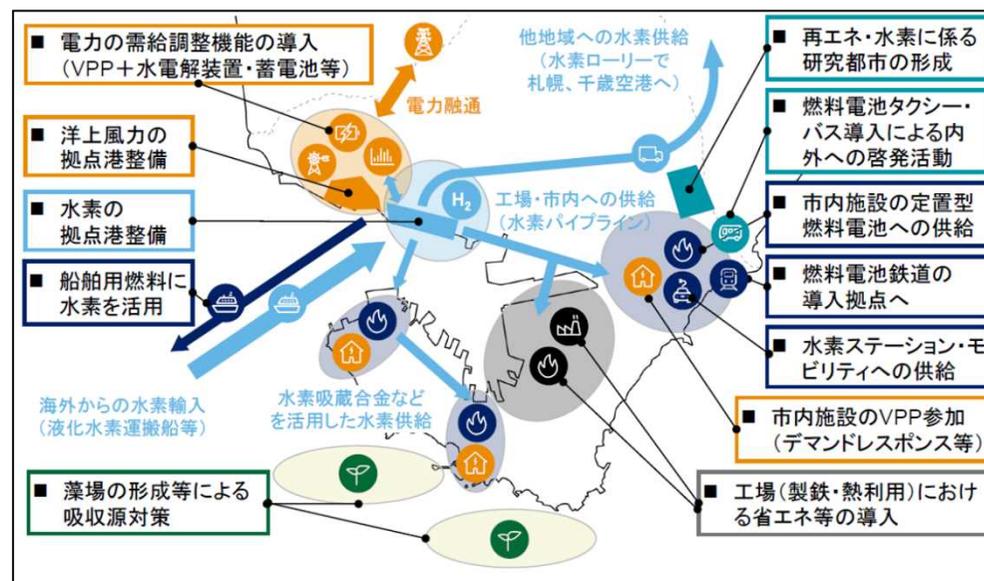
室蘭市では、早期に水素エネルギーの活用に着目するなど、市民・室蘭工業大学・地元企業・行政が連携して脱炭素に向けた取組を進めており、平成29年に「室蘭グリーンエネルギータウン構想」を策定しているほか、令和3年5月には産官学からなる「室蘭脱炭素社会創造協議会」を設立し取組を進めている。

室蘭市内の企業において風力発電部材の生産実績があるほか、令和2年1月に設立された「室蘭洋上風力関連事業推進協議会(MOPA)」により、室蘭港を拠点とし関連産業の誘致を目指す取組が進められている。

脱炭素社会



室蘭グリーンエネルギータウン構想(平成29年)



室蘭市における将来像のイメージ(令和3年、室蘭脱炭素社会創造協議会)

洋上風力発電



日本製鋼所(株)で生産された風力発電用の部材



室蘭洋上風力関連事業推進協議会の取り組み(SEP船視察)

室蘭港の目指す姿

【現在の室蘭港の役割】

< 産業・物流 >

- 鉄の生産を支える産業港湾
- 鉄鋼関連企業等の産業活動維持に必要な原材料の輸入や製品の輸出・移出の輸送拠点として機能する。

< にぎわい・交流拠点 >

- 大型クルーズ船による観光の玄関口
- 静穏・広大・大水深を活かし、大型クルーズ船を受け入れ、北海道の道南・道央地区の観光玄関としての役割を担っている。

課題及び要請

有識者 (委員会等)	多様化する鉄鋼製品出荷への対応、観光で港が稼ぐ能力の強化、新エネルギーの生産への対応、カーボンニュートラルの実現
室蘭港の課題	産業変化を踏まえた新たな物流機能の強化、埠頭機能の再編、コンテナ・ユニットロード機能の強化、新エネルギーへの対応、大規模災害時の幹線物流ネットワークの維持、戦略的な維持管理
企業 (ヒアリング)	大型船対応、背後ヤード不足、臨港道路の安全対策、施設の老朽化対策
漁船・小型船舶・作業船(ヒアリング)	漁港区における施設の修繕や老朽化対策
関連計画	室蘭市総合計画、室蘭市観光振興計画、室蘭市都市計画マスタープラン、室蘭市立地適正化計画

【今回計画】

目標年次：令和10年代後半

< 産業・物流 >

- 鉄・エネルギーの生産を支える産業港湾
- 鉄鋼関連企業等の産業活動維持に必要な原材料の輸入や製品の輸出・移出の輸送拠点として機能する。
- 鉄鋼・エネルギー関連産業の集積を活かし、洋上風力発電、水素関連産業など、北海道のエネルギー拠点としての機能を強化・拡大し、脱炭素化社会へ貢献する。
- 産業活動を支えるため、災害発生時の緊急物資輸送や、休憩船、作業船の受け入れにかかる機能を強化する。

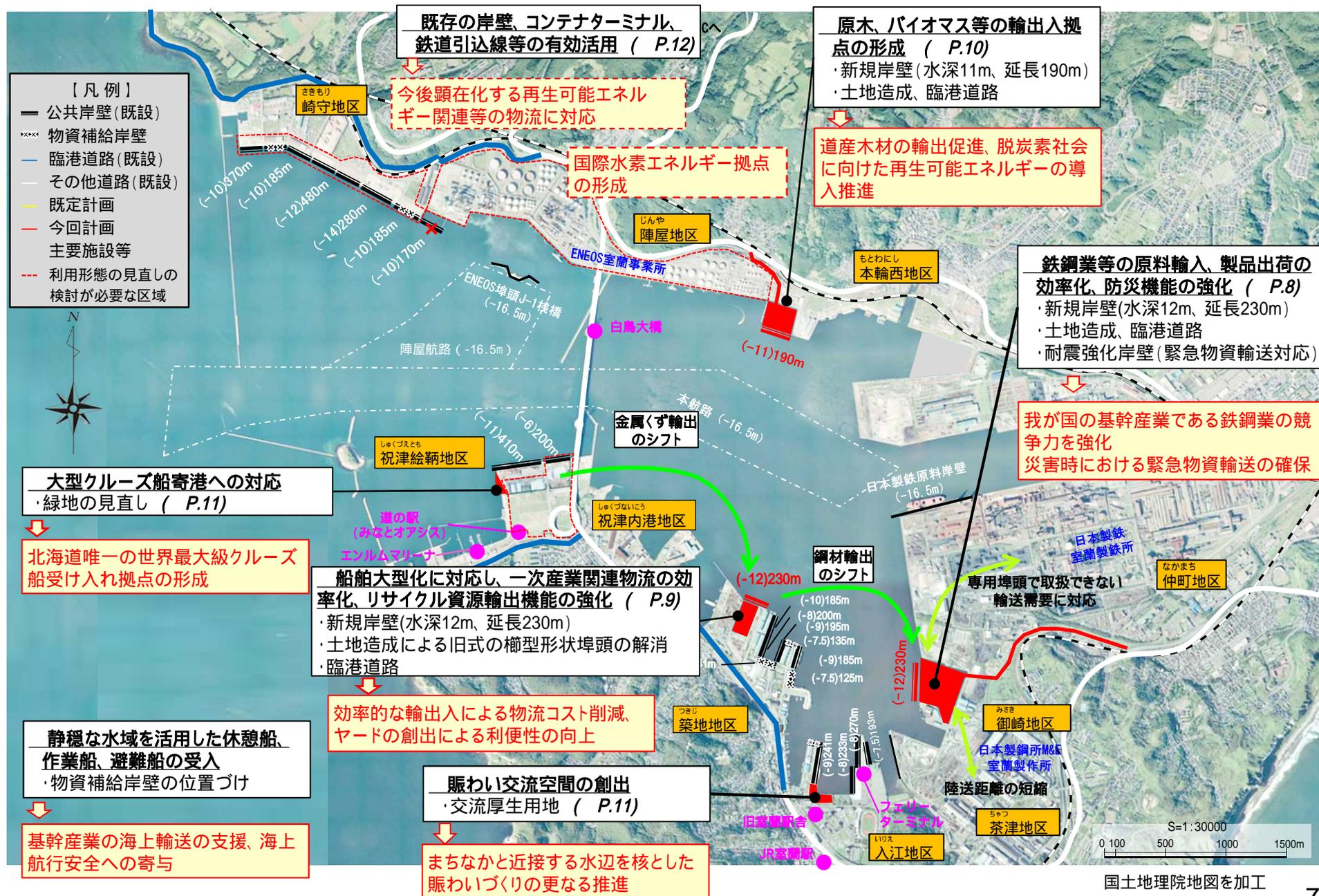
< 人流・港湾空間の利用 >

- 大型クルーズ船によるにぎわい・交流拠点
- クルーズ船の規模に合わせて室蘭港内でクルーズ船受け入れ機能を分担し、背後の観光地とも連携のもと、みなとを核とした地域のにぎわい作りの進展を図る。

室蘭港長期構想(2020.12) 将来像



室蘭港港湾計画改訂(案)の概要



主な計画内容 (製造業を支える物流機能の強化)

鉄鋼業をはじめとする立地企業の物流効率化のため、老朽化した岸壁や、未利用の公有水面を埋め立て、大型船輸送への対応や陸上輸送距離の短縮等を図る。

石炭の輸入を祝津絵鞆地区から御崎地区にシフトすることにより、祝津絵鞆地区でのクルーズ船受入環境の向上と、室蘭港における石炭輸送機能の維持の両立を図る。

大規模災害時の緊急物資輸送に対応した耐震岸壁を計画する。

現況の課題と解決の方向性

今回計画(御崎地区)

— 新規計画

課題

- ・クルーズ船利用も想定する祝津埠頭で石炭を輸入しており、粉塵が発生。

課題

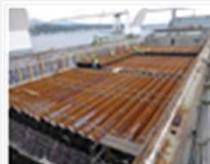
- ・ピーク時には、鉄鋼製品の野積場と出荷を行う埠頭が不足。



課題

- ・天然ガス輸送用クラッド鋼管等の生産地と出荷を行う埠頭が離れている。
- ・荷さばき地が狭いうえ、水深不足で積荷を減載して出荷している。

クラッド鋼管を生産



主な計画内容(産業空間の確保、物流機能の強化)

一次産業やリサイクル産業の物流機能の効率化のため、老朽化した岸壁や、未利用の公有水面を埋め立て、大型船輸送への対応やヤードスペースの確保等を図る。

祝津絵鞆地区の金属くずの輸移出を築地地区に集約することにより、祝津絵鞆地区でのクルーズ船受入環境の向上と、室蘭港における静脈物流機能の維持の両立を図る。

現況の課題と解決の方向性

今回計画(築地地区)

課題

- 米・化学肥料の輸入、金属くずの輸出にあたり、12m水深を必要とする3万トン級の船舶が利用するが、水深が10mしかないため満載できない。
- 荷さばき地が狭くヤードがひっ迫しているとともに、岸壁直背後に上屋があるため、荷役が非効率。



課題

- クルーズ船利用も想定する祝津埠頭で金属くずを取り扱い。

— 新規計画



主な計画内容(新たな需要への対応)

バイオマス発電燃料の輸入効率化のため、老朽化した岸壁や、未利用の公有水面を埋め立て、大型船輸送への対応や、北海道におけるバイオマス燃料の受入・供給拠点の形成を図る。

室蘭港背後圏の原木の輸出促進に寄与するため、本輪西地区において輸出拠点の形成を図る。

現況の課題と解決の方向性

今回計画(本輪西地区)

課題

- ・バイオマス発電所で用いるパームヤシ殻(PKS)の輸入にあたり、11m水深を必要とする2万トン級の船舶が利用するが、水深が9.5mしかないため満載できない。
- ・周辺で新たなバイオマス発電所(木質ペレットを使用)が検討されている。



新規計画



課題

- ・室蘭港背後の留寿都村や今金町等で生産される原木は、室蘭港に原木を扱うことのできる広いヤードを有する岸壁が少ないため、苫小牧港、函館港への横持ち輸送を強いられている。

主な計画内容 (旅客船受入拠点、親水・交流空間の形成)

【祝津絵鞆地区】

祝津埠頭(水深11m、延長410m)において、世界最大級のクルーズ船の寄港にも対応するバス等の駐車場、遊歩道を整備するなど、クルーズ乗客の受入環境を向上させる。

背後の緑地を地域の新たなにぎわいづくりの核とするため、キャンプ、バーベキューなどのアウトドア、マリレジャー(釣り、ヨット等)に対応した施設として活用する。

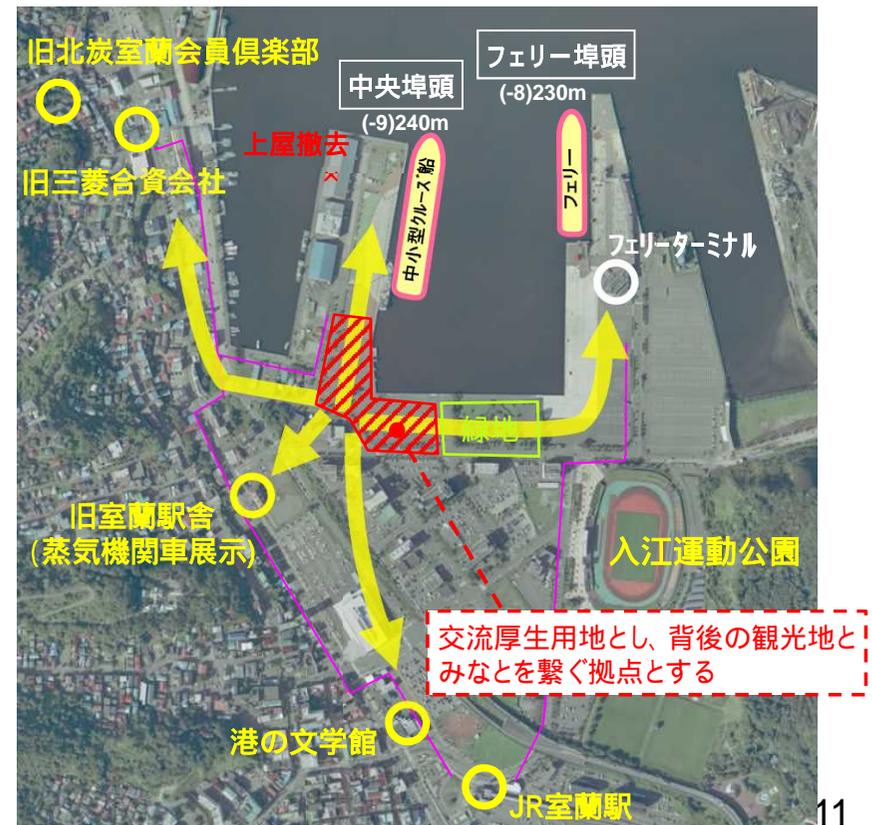
【入江地区】

既に供用している中央埠頭(中小型クルーズ)とフェリー埠頭においては、緑地用地の一部を新たに「交流厚生用地」として位置づけ、背後に広がる観光地への拠点とすることで、埠頭と背後の観光地が一体となった親水・交流空間の形成を目指す。

今回計画(祝津絵鞆地区)



今回計画(入江地区)



崎守地区、陣屋地区の活用方針

室蘭港における新エネルギーへの取組については、崎守地区、陣屋地区の活用が視野に入れられている。

・崎守地区では、木材チップの取り扱いが終了したこと等を踏まえ、大水深バースや広大で静穏な水域を活かし、大型SEP船の利用等、洋上風力の建設に関連した活用が検討されている。また、鉄道引き込み線や既設の多目的国際ターミナル等を活かし、環境への負荷を軽減した物流体系の構築も視野に入れている。

・陣屋地区では石油製品・重油の生産が終了し、水素エネルギーの活用も視野に検討しようとする動きがある。

以上を踏まえ、崎守地区、陣屋地区について「利用形態の見直しの検討が必要な区域」を設定し、官民協議等を通じその利用のあり方を検討する。

崎守地区



室蘭港の洋上風力発電拠点のポテンシャルと取り組み

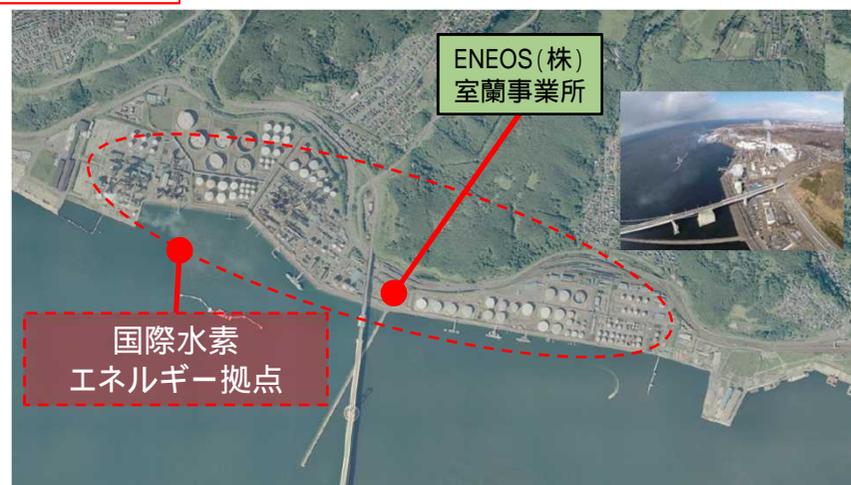


SEP型多目的起重機船の入港
(令和2年6月25日)



背後企業で生産された風力発電部材
(日本製鋼所M&E(株))

陣屋地区



国際水素エネルギー拠点に向けての先進的な取り組み



室蘭市長と英国・アバディーン市長
(水素エネルギー等で相互協力を
進めていく覚書を締結予定)



日本製鋼所(株)で生
産される水素ステー
ション用蓄圧器



水素活用の実証事業
(風力発電を用いて製造した
水素の車載タンクへの充填)

脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて

(意見)

- ・脱炭素化が世界的な潮流として大きく動き出しているなか、洋上風力発電、水素関連、バイオマス発電等の新たなエネルギー産業の導入は、当地域が工業地区としての技術の集積を活かす意味でも、これからの室蘭港の方向性として大変重要である。

(回答)

- ・脱炭素社会に向けた新たなエネルギー産業の導入等を目指し、今後の国や事業者等の動向を踏まえつつ、柔軟な対応をしたいと考えており、崎守地区、陣屋地区、祝津絵鞆地区において、利用形態の見直しの検討が必要な区域を定めている。

既存の港湾利用との調整について

(意見)

- ・洋上風力発電、水素関連産業等の新たな利用を促進するにあたっては、既存の利用者に対する代替地の確保などについて、港湾管理者が主体となり対応を考えて欲しい。

(回答)

- ・既存の港湾利用者に十分な配慮をした上で取り組みを進めて行きたい。

貨物船大型化への対応について

(意見)

- ・築地地区においては、上屋、倉庫、岸壁の老朽化や水深不足などの課題があり、また、近年の海上物流は大型船での大量一括輸送が主流となっていることから、今回の計画における埋立や水深の見直しは大変理にかなっている。

日本の鉄鋼業における室蘭の位置付け

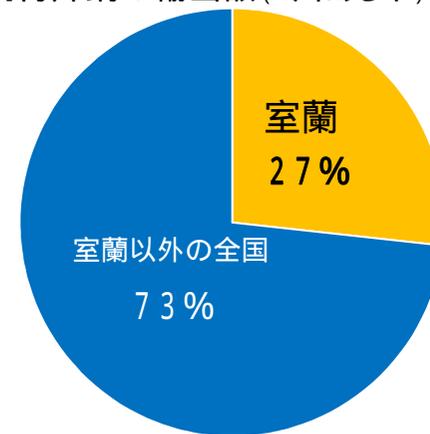
日本の鉄鋼業界は、この数年間で、国内の高炉25基のうち6基を休止するなど、合理化を進展させてきたが、関東以北唯一の高炉を有する室蘭製鉄所においては20年ぶりの大改修を行って機能を増強している。
各メーカーが製鉄所の機能分担を進める中、室蘭製鉄所は特殊鋼(棒鋼・線材)製造に特化させていく計画である。

➤ 我が国の製鉄所の高炉合理化の動き
(25基のうち6基を休止)



➤ 我が国の特殊鋼(棒鋼、線材)輸出は、**室蘭が全国の4分の1以上を担っている。**

【特殊鋼の輸出額(令和元年)】



	生産高(全国)	輸出量(全国)	輸出量(室蘭)
棒鋼	903.9万トン	39.9万トン	24.4万トン
線材	157.6万トン	42.4万トン	
計	1061.5万トン	82.3万トン	24.4万トン

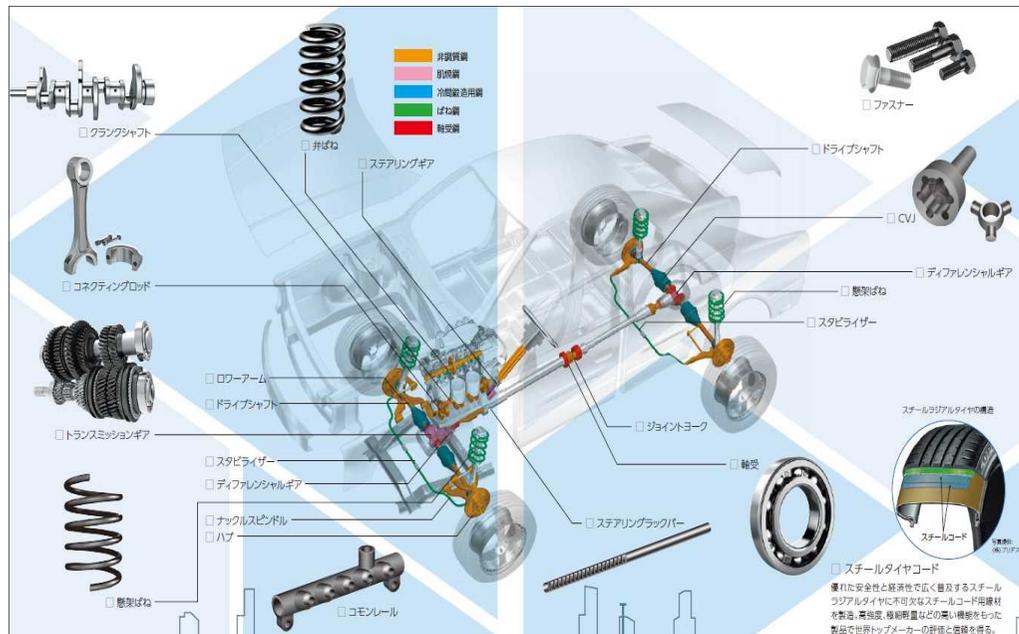
室蘭港からの鋼材移出は130.5万トン
このほか、陸送されるものや構内の工場に納入されるものもある

出典：日本鉄鋼連盟(2019年)、室蘭港湾統計(2019年)

室蘭港で製造される特殊鋼(棒鋼・線材)の重要性

室蘭港で製造される特殊鋼(棒鋼・線材)は、自動車の品質と性能を左右するエンジンや駆動系、足回り等に使用される重要保安部品向けに供給され、日本の基幹産業を支えている。

低燃費自動車や高効率発電設備等のCO2削減に貢献する工業製品を製作する上で、高機能な特殊鋼は不可欠なパーツとなっている。



棒鋼・線材の用途例(自動車)

出典: 日本製鉄(株)パンフレット

3. エコプロダクト

エコプロダクト: 省エネ・CO₂削減に貢献する日本の工業製品

- 我が国の製造業が先頭で開発し、実用化してきた、低燃費自動車や高効率発電設備・変圧器をはじめとする多くの工業製品は、その高いエネルギー効率により、これまで国内外において、省エネやCO₂削減に大きく貢献してきた。
- これらの開発・実用化において、日本鉄鋼業は製造業との間に、さまざまな機能を備えた鋼材の開発・供給を通じた密接な産業連携を構築し、これら高機能鋼材は、製品の機能向上に不可欠なパーツとして、需要家から高い信頼を得ている。

▶航空機用部品

高強度かつ軽性に優れたジェットエンジンシャフトにより最大推力UP→航続距離向上・燃費向上

▶ハイブリッドカー電気自動車用モーター

高効率無方向性電磁鋼板による燃費向上・高出力・小型軽量化

▶自動車・産業機械部品

高強度歯車鋼による変速機の高効率化・小型軽量化→燃費向上

▶ボイラーチューブ

高温・腐食に強い鋼管により発電効率が向上

▶サスペンションギア(懸架バネ)

過酷な環境で使用される非バネ・懸架バネの強度向上により、自動車の軽量化、低燃費化に貢献

▶発電機用部品

高温・高速回転の過酷な条件下で活躍する高効率発電用タービンの要

33

省エネ・CO₂削減に寄与する特殊鋼

出典: 2020年度第1回 産業構造審議会 産業技術環境分科会 地球環境小委員会 鉄鋼ワーキンググループ

室蘭港の目指す姿と基本方針との関係

【目指す姿(前回改訂時)】

～地域の活性化をリードする総合交流空間、21世紀の室蘭港～

背後圏の生産・消費活動を支える流通拠点港として、産業構造の変化、物流需要の増大、輸送革新の進展に対処するため、外内貿物流機能を強化する。

老朽化、陳腐化した既設ふ頭の機能高度化と臨海部の用地の有効を図るため再開発を促進する。

港湾における快適な環境の創造を図るため、魅力ある周辺環境に配慮し、親水性に富んだ緑地等を整備する。

胆振地域の産業発展に資するため工業用地の確保、フェリー輸送需要の増大に対応するためのフェリーふ頭機能の充実、作業船など適正な収容をはかるための小型船だまりの整備及び円滑な交通を確保するための臨港道路の整備を図る。

【目指す姿(今回改訂)】

～新たなものづくり・にぎわい・エネルギーを創り出す室蘭港～

鉄・エネルギーの生産を支える産業港湾

・鉄鋼関連企業等の産業活動維持に必要な原材料の輸入や製品の輸出・移出の輸送拠点として機能する。

・鉄鋼・エネルギー関連産業の集積を活かし、洋上風力発電、水素関連産業など、北海道のエネルギー拠点としての機能を強化・拡大し、脱炭素化社会へ貢献する。

・産業活動を支えるため、災害発生時の緊急物資輸送や、休憩船、作業船の受け入れにかかる機能を強化する。

大型クルーズ船によるにぎわい・交流拠点

・クルーズ船の規模に合わせて室蘭港内でクルーズ船受け入れ機能を分担し、背後の観光地とも連携のもと、みなとを核とした地域のにぎわい作りの進展を図る。

港湾の基本方針

我が国及び地域の基幹産業・地場産業を支える物流機能の強化と港湾空間の形成

- 我が国及び地域の基幹産業・地場産業を維持し、民間投資及び雇用を誘発するための港湾機能の強化並びに内陸部との連携強化
- 物流機能・産業空間の新たなニーズに柔軟に対応する港湾空間の利用再編・再開発の推進

観光振興及び賑わい創出に資する港湾空間の利活用

- みなととその周辺における散策・飲食・ショッピング等の機能の確保及び地域住民との交流・賑わいの創出等、快適で利便性の高い交流空間の形成
- 地域の文化・歴史等の特色を活かした美しく魅力的なみなとまちづくり
- クルーズ船、その他の水上交通等の多様な船舶の回遊・寄港要請への対応

災害から国民の生命・財産を守り、社会経済活動を維持する港湾・輸送体系の構築

- 災害時における緊急物資輸送、市民の生活支援、避難誘導等に迅速に対応するため、平常時から必要な情報を共有・利活用できる体制、災害発生後に被災状況、インフラの利用可否等の情報等を遅滞なく提供できる体制等の構築

今回計画での主な対応

<物流・産業>

- 鉄鋼業等の原料輸入、製品出荷の効率化
- 船舶大型化に対応し、第1次産業関連物流の効率化、リサイクル資源輸出機能の強化
- 原木、バイオマス等の輸出入拠点の形成

<人流・賑わい>

- 大型クルーズ船寄港への対応(緑地)
- 賑わい交流空間の創出(交流厚生用地)

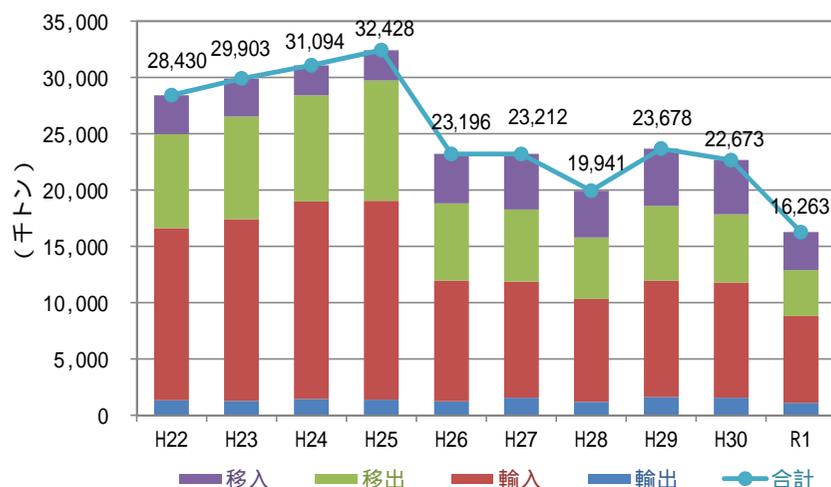
<安全・安心>

- 防災機能の強化(耐震強化岸壁)
- 静穏な水域を活用した休憩船、作業船、避難船の受入(物資補給岸壁)

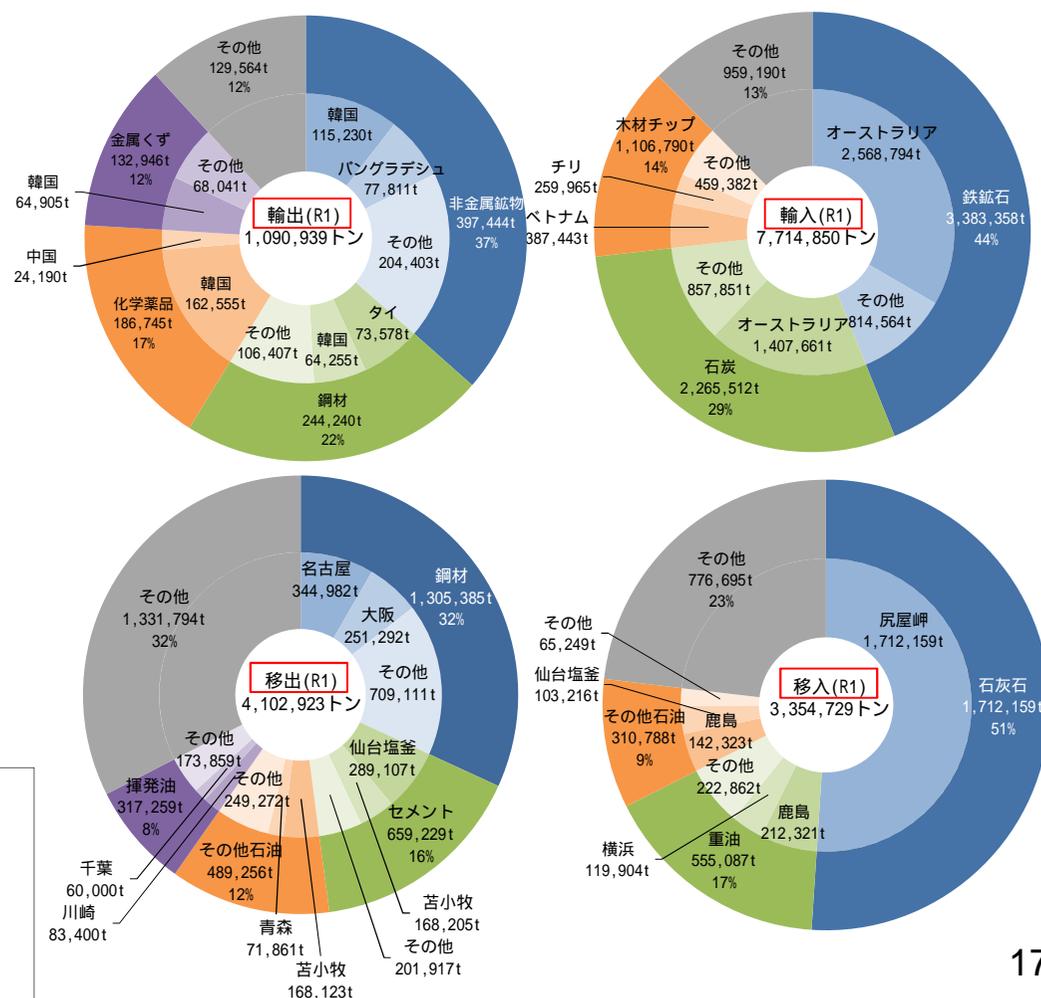
貨物取扱状況

大宗貨物は、非金属鉱物、鋼材の輸出、鉄鉱石、石炭の輸入、鋼材の移出、石灰石の移入。
 製鉄に必要な鉄鉱石、石炭等はオーストラリア、中国等から輸入。
 鋼材、セメント、その他石油が移出貨物の大半を占め、これらは名古屋、大阪、仙台塩釜、道内港湾に向かう。
 石灰石、重油が移入貨物の大半を占め、尻屋岬、鹿島、横浜等から移入している。

室蘭港の総取扱貨物量の推移



室蘭港取扱貨物量の品目別内訳



- ・平成26年、製油所が石油化学工場へ転換
- ・平成30年、フェリー航路開設
- ・平成31年(令和元年)、石油化学工場が物流拠点へ転換。製紙向け木材チップの取扱(約111万トン)が終了
- ・令和2年、バイオマス発電所の運転開始により燃料輸入増加

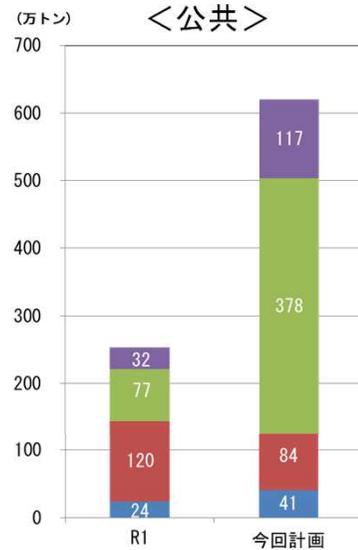
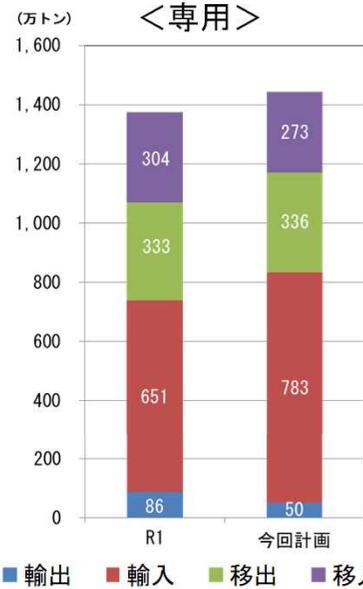
【既定計画(平成6年改訂、平成17年見込み)との相違の要因】

- ・計画貨物量は7,118万トン(うち、フェリー3,240万トン)
- ・平成20年、燃料高騰や経営環境悪化から、全5航路あったフェリー航路が青森航路を最後に全て廃止。
- ・平成26年以降、製油所の転換に伴い原油等の取扱が減少。
- ・金属くず輸出は増加(H17見込み)10万トン (R1実績)13万トン

計画貨物量の設定

世界的な自動車部品需要拡大にともなう金属機械工業品(鉄鋼・鋼材)の移出、鉱産品(石炭・鉄鉱石)の輸入の増加のほか、バイオマス発電に用いる薪炭(PKS)・木材チップ(木質ペレット)の輸入の増加が見込まれる。今後の国内輸送環境の変化に対応したユニットロード貨物輸送の増加を見込む。

今回計画の貨物内訳



【増加の要因】

＜専用＞

	品類・品目	R1	今回推計	差分
移出	鋼材	130	154	24
輸入	石炭	219	280	61
輸入	鉄鉱石	338	432	94

自動車部品の需要増
H19程度の生産量への回復

(万t)

＜公共＞

	品類・品目	R1	今回推計	差分
移出	フェリー	64	309	245
移入	フェリー	22	101	79
輸入	薪炭(PKS)	0	35	35
輸入	木材チップ(木質ペレット)	0	35	35
移出	鉄鋼	0	15	15
輸出	原木	0	9	9

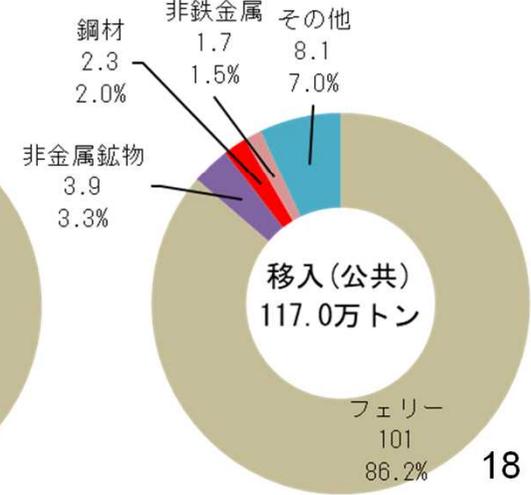
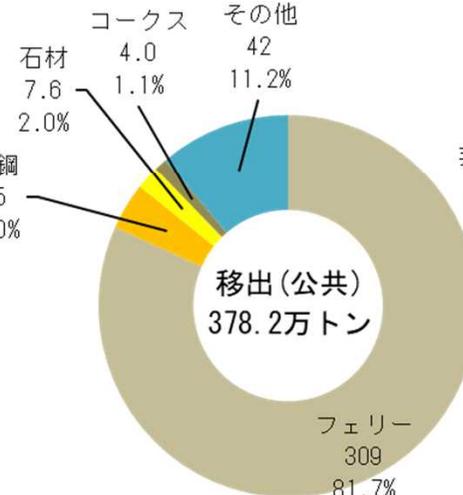
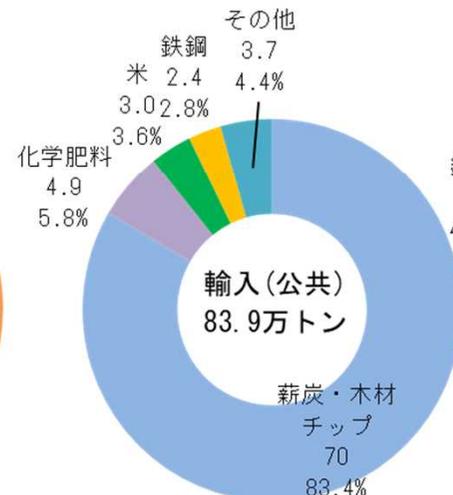
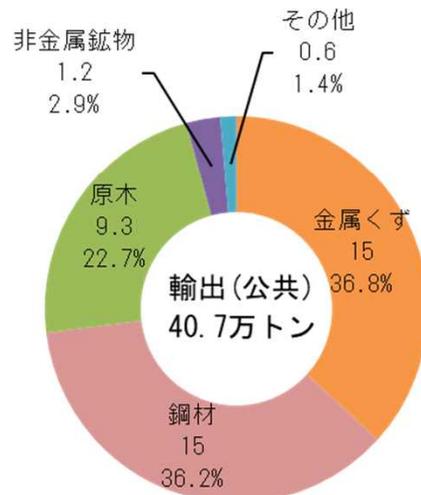
増便、輸送環境の動向を見込む
増便、輸送環境の動向を見込む
企業動向より(R2運転開始)

企業動向より

※企業動向より

※港湾背後圏の森林面積より

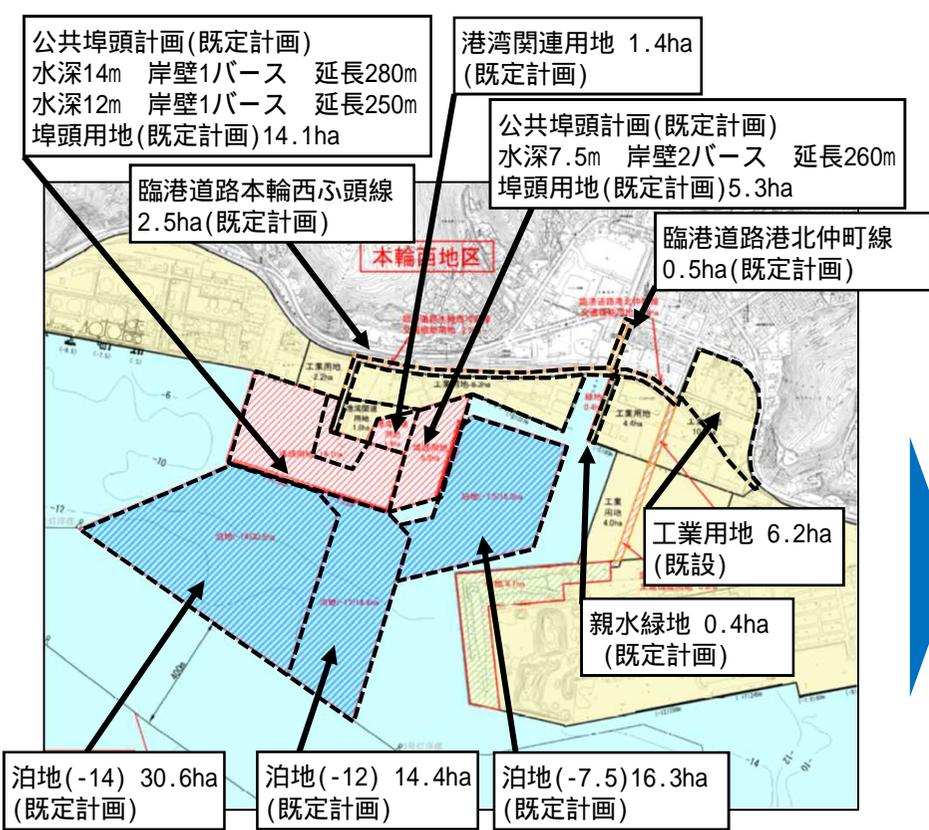
(万t)



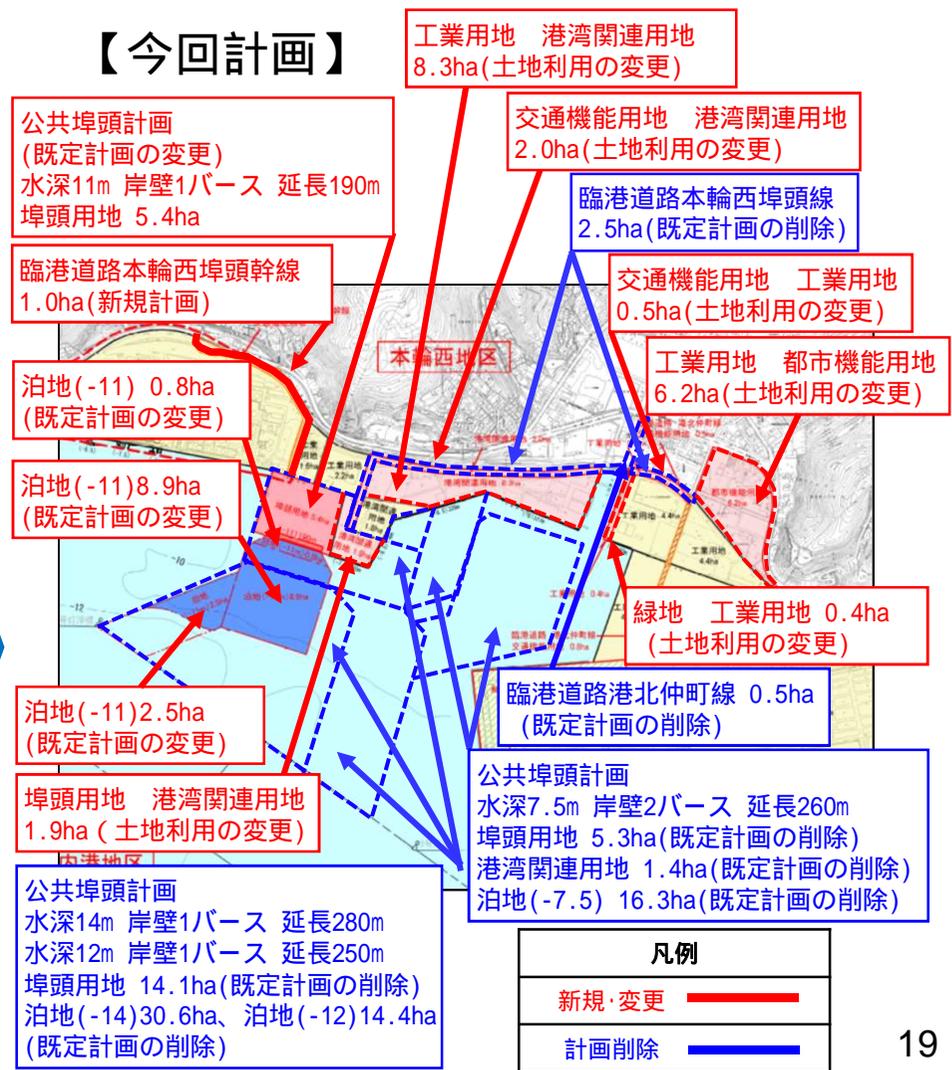
計画変更内容[本輪西地区]

需要の高まっているバイオマス発電燃料や木材の輸出に適した形に対応するため、公共埠頭を計画する。石油企業が鉄道輸送を行っていた用地を活用し、踏切の交差がなく本輪西埠頭と国道を結ぶ臨港道路を計画する。時代背景の変化や立地特性を考慮し、港湾背後の工業用地を都市機能用地に変更する。

【既定計画】



【今回計画】

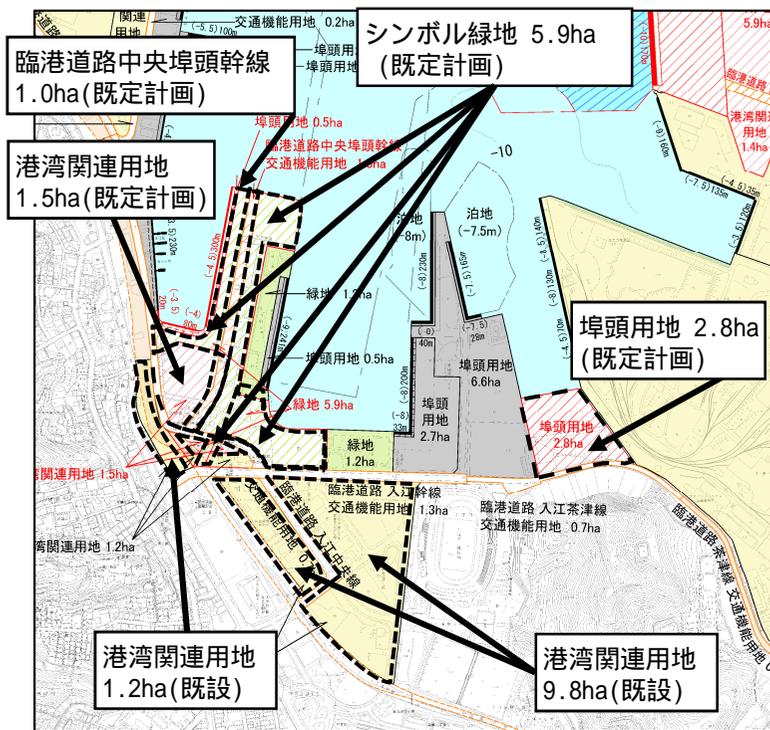


凡例	
新規・変更	— (Red line)
計画削除	— (Blue line)

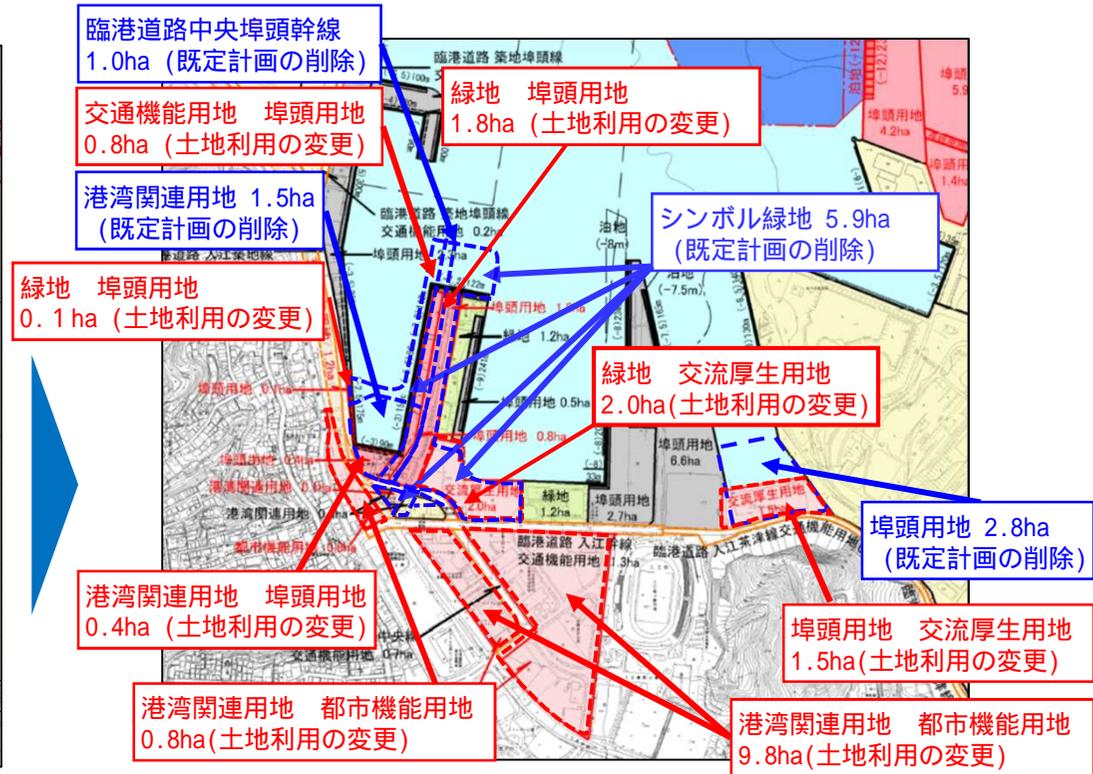
計画変更内容[入江地区]

中型～小型クルーズ船やフェリーによる人流受け入れ拠点とし、港と町とが一体となった魅力ある港湾空間を形成するため、土地利用計画を見直す。

【既定計画】



【今回計画】

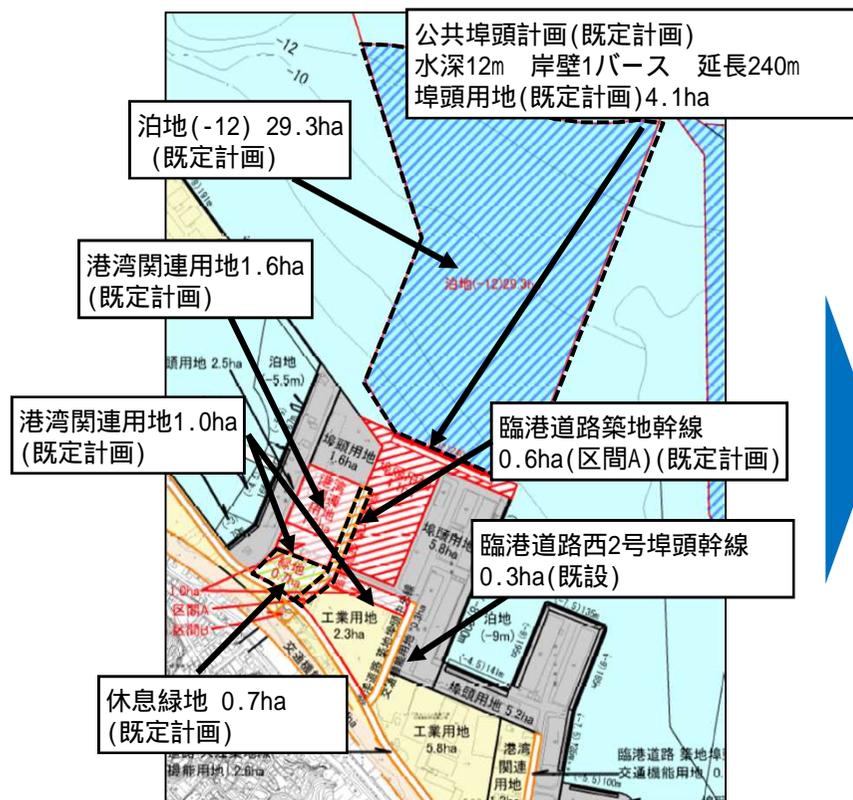


凡例	
新規・変更	赤線
計画削除	青線

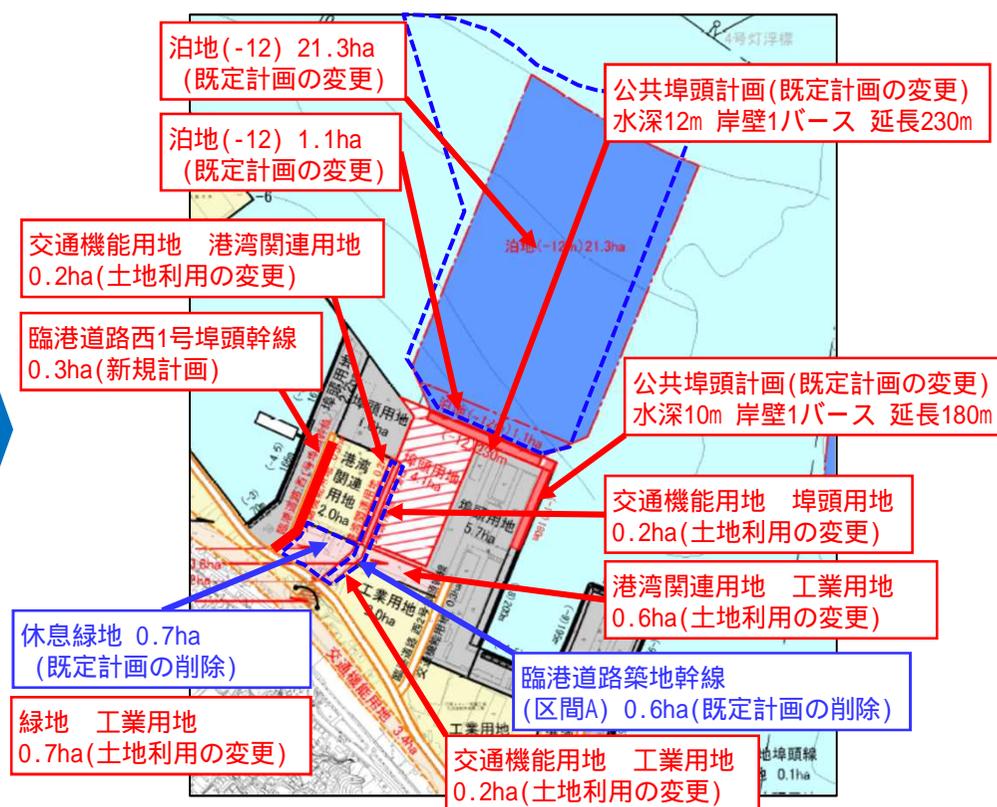
計画変更内容[築地地区]

一次産業関連物流の効率化や、港内に分散している金属くず取扱の集約を図り、国際競争力強化に向けた輸送船舶の大型化に対応するため、公共埠頭を計画する。
老朽化した上屋の再編等により限られた用地を有効に活用するため、土地利用を変更する。

【既定計画】



【今回計画】

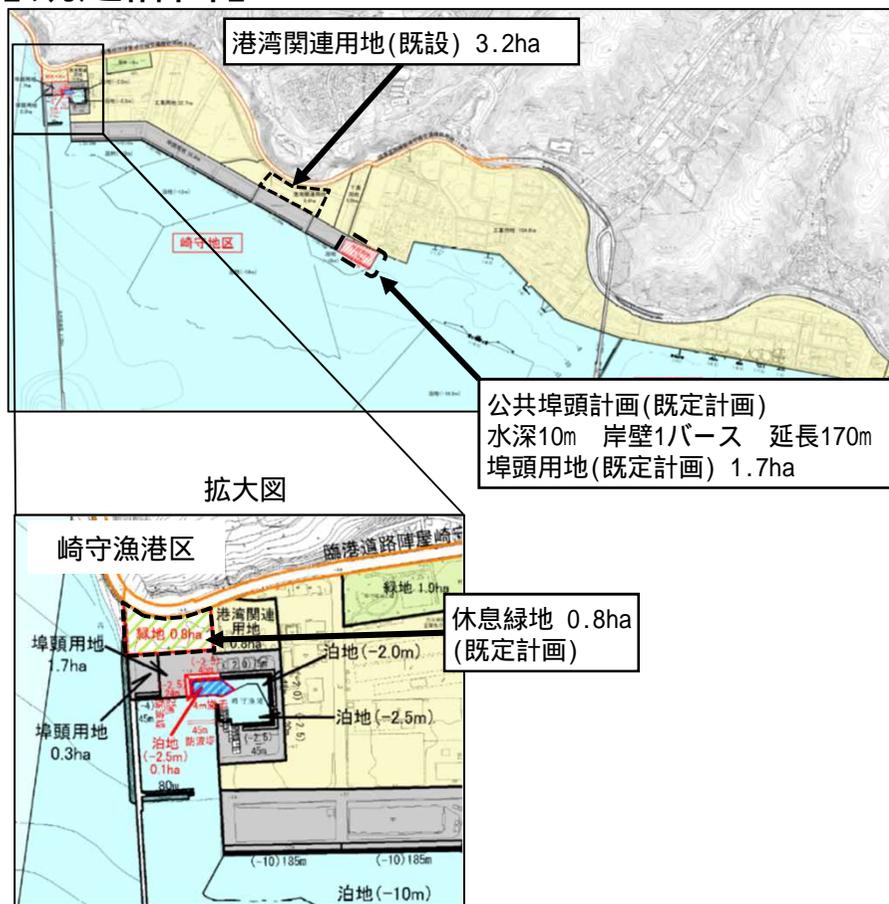


凡例	
新規・変更	———
計画削除	———

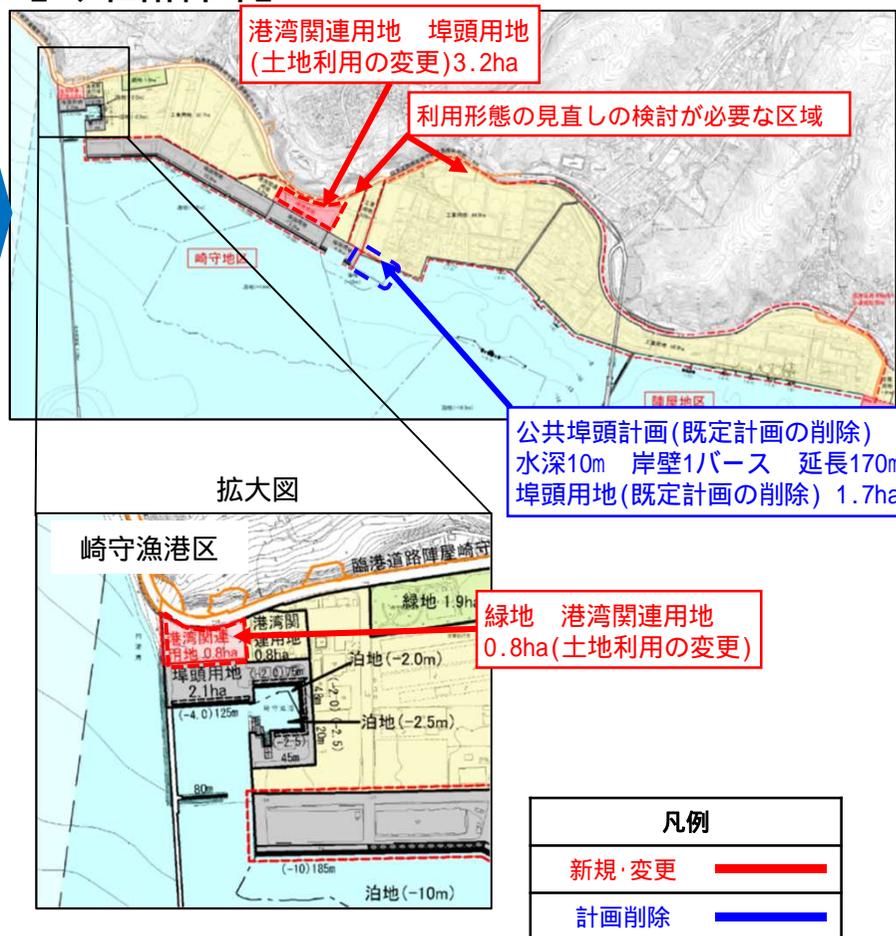
計画変更内容[崎守地区及び陣屋地区]

崎守地区の公共埠頭計画については、取扱い貨物の集約等の観点から、既定計画を削除する。
 崎守6号岸壁の背後については、増加するコンテナ需要に対応しヤードとして利用できるようにするため、埠頭用地を計画する。
 将来的な洋上風力発電資材等の取扱いに向けた検討を行う必要があるため、利用形態の見直しが必要な区域を設定する。

【既定計画】



【今回計画】



凡例	
新規・変更	— (Red line)
計画削除	— (Blue line)